
 自然科学研究機構シンポジウム・メールマガジン ■

-- NINS Symposium ----- 2012/06/18 発行 第 002 号 -----

自然科学研究機構若手研究者賞授賞式及び記念講演にご出席頂きました皆様には、本当にありがとうございました。おかげさまで盛況のうちに終えることができました。たくさんの高校生、大学生の方々にもお越し頂き、非常に活気がみなぎり、機構職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、第 13 回自然科学研究機構シンポジウムは核融合科学研究所を中心に、テーマをエネルギー関係としてプログラムを鋭意作成中です。

是非、お楽しみにお待ちください。

 第 13 回シンポジウム最新情報 ■

日時：平成 24 年 9 月 29 日（土）10:00～（予定）

場所：吹上ホール（メインホール）

名古屋市千種区吹上 2-6-3

テーマ： エネルギー関係（予定）

 第 10 回のシンポジウムが本になります ■

この度、平成 22 年 10 月 10 日に開催いたしました、第 10 回自然科学研究機構シンポジウム「多彩な地球の生命 - 宇宙に仲間はいるか-」が講談社ブルーバックスより、「地球外生命 9 の論点」として書籍化され、6 月 20 日発売の予定です。

当日の 9 名の最先端の科学者による地球外生命を考える講演について、分かりやすく再構築されております。

http://www.bookclub.kodansha.co.jp/bc2_bc/search_view.jsp?b=2577755&x=B

 各機関のイベント情報 ■

H24.6.25～7.29

【核融合科学研究所】

・宇宙の见えない物質と地上の輝く星

平成 24 年 7 月 21 日（土）15:30～17:20

セラミックパーク MINO（岐阜県多治見市）

<http://www.nifs.ac.jp/event/120721.html>

編集後記

本文にも記載いたしましたが、第10回のシンポジウムを元にした書籍が6月20日に発売になります。ご参加頂いた皆様には、お聞き頂いた内容をより分かりやすく、お越しいただけなかった皆様にも、地球外の生命に思いをはせて頂ける内容となっております。

一足先に原稿を見せて頂いたのですが、最先端科学による真剣な論点と、積極的に可能性を考える天文学者と生命の奇跡を知るが故に慎重な生物学者の方々（例外もありますが）の対照的な論調についても楽しく読めると思います。是非お手にとって頂きたいと思います。よろしく願いいたします。

自然科学研究機構シンポジウム・メールマガジン

発行システム：『まぐまぐ!』 <http://www.mag2.com/>

○配信の中止・購読・バックナンバーはこちらから
<http://www.mag2.com/m/0001498331.html>

○ご意見は以下までお願いします
sympo@nins.jp

発行者：自然科学研究機構

<http://www.nins.jp/>

Copyright(C)2012 NINS All rights reserved.
